

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和元年七月度 入選句（投稿総数二千五百三十七句・小中学投句数千七百五十三句）

特選

空缶のころがる坂の暑さかな 加茂郡川辺町 肥田 春渡(中二)

空缶の転がつてゆく金属音は、思った以上に大きくて高い音です。そこに暑さを感じる作者の感性には驚きました。すごいなあ。この詩心をこれからも存分に發揮して下さい。
私には、誰が捨てたのか判らない空缶を拾って、空缶入れに捨てる作者の姿が目には浮かびます。

ヒマワリがたいようさがしくびをふる 大垣市 青山 了平(小三)

学校で育てているのでしょうか。それとも近所に、ひまわり畑があるのでしょうか。とてもよく観察しています。まるでひまわりが、自分の意志で首をふつているかのようですね。とても不思議です。もつとよく観察してみると、太陽の方を向いていないひまわりもあります。なぜでしょう。夏休みの自由研究にはぴったりかもしれません。

ただいまのぼうしのなかはあせだくだ 大垣市 栗田 せな(小三)

「ただいま！」の元気な声が聞こえてきそうです。この句ぜんたいから、日に焼けた作者の健康的な様子を窺うことができます。

三年生の俳句の授業は、「季節のことば」を探すことから始まります。帽子の中の「汗」を夏の季節の言葉として、うまく俳句を作ってくれました。

秀逸

夕蟬の鳴いて祖母いる海の町 加茂郡川辺町 肥田 春渡(中二)

ずんずんと夏が近づく水門川 大垣市 多賀谷 一成(小六)

かくれんぼかくれた所にコオロギが 大垣市 新井 遙真(小六)

夏の雨水輪ぶつかりけんかする 大垣市 遠藤 花音(小六)

ランドセルおもくてないたしんがつき 大垣市 豊永 蕾夢(小二)

あさがおのまびきしためをうえてみた 大垣市 加藤 綾人(小二)

わたしよりぷーるではしゃぐおじいちゃん 大垣市 砂川 春乃(小二)

せみのこえどんどんつづくでんごんだ 大垣市 新井 愛依(小三)

お父さんコップひやしてビールのむ 大垣市 わたなべ 一成(小四)

水草は川の流れに指示される 大垣市 山田 伊緒(小六)

入選

たきの水大きく二か所わかれてる	大垣市	芦田	瑛(小三)
万縁に包まれている六年生	大垣市	小谷	京加(小六)
向日葵が自由に生きる午後一時	加茂郡川辺町	黒岩	遥菜(中二)
消えていく花火の音と君の世界	加茂郡川辺町	安田	心美(中二)
夏のたきそれと同時に過ぎる時	大垣市	高木	瑠美(小六)
ばしよの葉上から見るとかたつむり	大垣市	太塚	惺弥(小六)
夏の日とかくれんぼする私かな	大垣市	大山	心愛(小六)
梅雨がきて晴れが一人でおるすばん	大垣市	吉村	時泳(小六)
すいれんは大きな口で水を待つ	大垣市	上田	旺佳(小六)
みずたまりのぞきこんだら夏の空	大垣市	多田	伊織(小六)

入選

おおきいぞことしのすいかあまいかな	大垣市	河合	結生(小二)
かたつむりのんびりいくよそれもいい	大垣市	楠	舞花(小二)
あみどからやもりのあかちゃんこんぼんは	大垣市	杉野	実咲(小二)
うんどう会おにいちゃんときどし	大垣市	かとう	あいり(小三)
おりひめはいつもあいたいひこぼしに	大垣市	米津	祐人(小四)
へチマさんどこまでのびれば大人なの	大垣市	竹下	ゆう菜(小四)
こいのぼりそらのうみをおよいでいる	大垣市	中村	明日香(小三)
あじさいの中からへビのぬけがらが	大垣市	山田	隆之佑(小四)
なつやすみとうけいグラフやってみる	大垣市	白澤	奈央(小四)
作りだきかわをむこうにおしている	大垣市	加藤	心羽(小六)

選者吟

やはらかく握る掌蟬の声
せいじ